

令和 8 年度 第 2 回 苫小牧市食育推進協議会（議事要旨）

日 時 令和 8 年 8 月 19 日（水）18：30～19：40

場 所 本庁舎 5 階 第 2 応接室

出席者 協議会委員 9 名

岡元委員長、浅倉委員、荒物屋委員、岩城委員、遠藤委員、神開委員、
野村委員、星野委員、宮崎委員

事務局 7 名

健康福祉部次長、健康づくり課長、健康づくり課長補佐、健康づくり課主
査、健康づくり課栄養士、健康づくり課主任主事、健康づくり課保健師

記 者 1 名

1 会議の成立状況

事務局より、委員13名中 9 名が出席し、苫小牧市食育推進協議会設置要綱第 6 条
第 2 項に基づき、本日の会議が成立している旨を報告。

2 議事概要

議事 1 -(1) 令和 8 年度 苫小牧市食育に関するアンケート調査結果について

事務局より資料1に基づき、市民の食生活の実態や食育への関心（回収率36.5%）
を報告。

【宮崎委員】

食育に関心があると答えた人が6割以上いる一方で、市の取組を知らない、参加し
たことがないという人が多い。この「関心と行動のギャップ」は非常にもったいな
い。市の公式LINEを活用するなど、周知方法を工夫して参加率を高めるべきではな
いか。

【事務局】

周知に関するアイデアをいただき感謝する。関心層が実際の参加や実践に結びつ
くよう、広報のあり方を検討していきたい。

議事1-(2) 第2次苫小牧市食育推進計画 目標と実績について

事務局より資料 2 に基づき、計画の最終達成状況を報告。11指標中、達成（A）は
1 件、悪化（D）は 3 件となった。

【宮崎委員】

肥満については食生活だけでなく「運動」の要素も大きい。特に働き盛り世代の
肥満解消は難しい問題だ。また、評価方法について、現状「C（変動なし～悪化傾

向)」とされているが、例年目標値から大きく乖離し続けている場合、ずっとC評価のままで良いのか。目標との乖離幅を評価に反映させるべきではないか。

【事務局】

運動については、将来的に「健康増進計画」と「食育推進計画」を統合する方向で検討しており、関連付けて施策を展開したい。スポーツ担当部署とも連携できる施策がないか個別に協議中である。

評価のあり方についても指摘の通り、長期的な乖離をどう捉えるかは重要である。次期計画に向けて、下がった要因の分析と併せて評価手法を検討したい。

【荒物屋委員】

アンケートの結果から、食育の知識や理解度は着実に上がっていると感じる。しかし、物価高（野菜の価格高騰）や時間の不足、単身世帯の増加といった社会背景があり、「理解はしているが実践できない」という層が増えている。ここをどう工夫するかが最大の課題だ。

【事務局】

意識と実践のギャップは我々も大きな課題と認識している。コロナ禍を経て社会経済活動が変化し、家族での食事が難しくなっている背景もある。食の大切さを伝えるという土台を築きつつ、実践しやすい環境づくりを模索したい。

議事1-(3) 第3次苫小牧市食育推進計画 目標（案）について

事務局より資料3に基づき、次期計画（R9～R11）の基本目標と数値目標案を提示。

【宮崎委員】

資料2で「D評価（悪化）」とされた「主食・主菜・副菜を揃えた食事」の割合について、本市の数値は国の現状値よりは高い。悪化していても国より高いものをどう評価するか、市民への見せ方を検討してほしい。また、食育を学ぶ場への参加を促すため、イベント等の参加人数自体を指標に入れてはどうか。

【事務局】

目標値の立ち位置（国との比較）が分かるような見せ方は検討したい。指標については、基本的には市民の「行動変容（結果）」を測るアウトカム指標を重視している。イベント回数等の事務局側の実績（アウトプット指標）については、計画の下位にある個別施策の管理の中で取り組んでいきたい。

【星野委員】

苫小牧市ならではの「独自性」を目標に盛り込むべきではないか。「こどもどまんなか」施策との連動、日本初のスポーツ都市宣言としての運動併用型食育、あるいは工業都市として交代制勤務者が多い街の特性に合わせた食育目標など、苫小牧ら

しい独自性が打ち出せると、市民の注目度も上がるのではないか。

【事務局】

計画内には57の個別施策があり、保育施設での講習会や企業の健康経営表彰など幅広く展開している。指標そのものは全体を網羅するため一般的になりがちだが、施策の展開において「幅広い世代」や「工業都市としての立場」を意識し、独自性が見えるような計画にしていきたい。

3 閉会

次回は11月に開催予定であることを確認し、19時40分に閉会した。